

別紙様式 1

令和 7 年度呉中央中学校区研究推進計画

校番 (13) (呉中央中) 学校

校長名 坂 田 恭 一

1 学校教育目標

「自分」を育てる

2 目指す児童生徒像

自己を確立し、他者と協働し、新たな価値を創造する生徒（義務教育修了時）

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
後期 (8・9年)	学習過程や様々な場面で、既存の知識や技能と関連付けながら活用することができる知識・技能を身に付けている。	知識・技能を活用して、課題解決に向けて解決策を見だし（抽象化・構造化する等）、相手や目的に応じて、論理的かつ効果的に表現したり、伝え合ったりしている。	課題解決に向けて、自分で目標を見だし、自分の考えを明確にもちながら、協働して取り組もうとする。
中期 (5・6・7年)	学習過程や様々な場面で、学ぶために必要な活用できる知識・技能を身に付けている。	知識・技能を活用して、課題解決に向けて解決策を考え（多面的・多角的に見る等）、相手や目的に応じて、効果的に表現したり、伝え合ったりしている。	課題解決に向けて、自分の考えを明確にもち、協力して取り組もうとする。
前期 (1・2・3・4年)	様々な体験や活動を通して、感じたり気付いたりしたこと等を活用することができる知識・技能を身に付けている。	知識・技能を活用し、課題解決に向けて解決策を考え（比較・分類等）、分かりやすく表現したり、伝え合ったりしている。	課題解決に向けて、興味をもって、自分から取り組もうとする。

4 研究主題等

(1) 研究主題

「自分」を育て地域とともに生きる児童生徒の育成
 ～「つながり」を大切にしたい深い学びを実現する生活科・総合的な学習の時間を通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本学園は、「自分を育てる」を学校教育目標とし、「自己を確立し、他者と協働し、新たな価値を創造する生徒（義務教育修了時）」を育成することを目指した教育活動を展開している。この学園構想のもと、育成を目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」の3つに設定し、生活科・総合的な学習の時間を軸とした研究を行っている。

本学園は、小学校と中学校が同じ施設内にある施設一体型の小中一貫校である。そのため、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるまでは、小中が協働して様々な小中一貫教育の取組を実施し、小中の教職員は様々な打ち合わせを頻繁に行っていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、小中合同の教育活動も全て停止、同時に教職員間の連携も停止した。その後も、新型コロナウイルス感染症が収束するまでの間に、これまでの小中の取組をよく知っている教員が転任し、新しいメンバーに入れ変わっていく中で、小中の教職員相互の関わりや小中合同の教育活動が薄れ、停滞した状況が続くという大きな課題があった。ここ数年で、小中合同の研修の実施や新たな取組の創出に努めるとともに、小中の教職員間のコミュニケーションの向上に努めているところである。

また、本学園は呉市の中央地区に属しており、地域には、中通商店街をはじめとする個人商店や、図書館をはじめとする文化的施設、スポーツ施設、各種事業所、保育園・幼稚園、広島県立呉三津田高等学校や二河川など、体験的な学習に適した教育資源、地域の人材が豊富にある。しかし、児童生徒と物的・人的関わりは希薄で、地域の人々とのつながりが十分にあるとは言えない状況にある。

そこで今年度は、「つながり」をテーマとして、本学園（施設一体型）のよさを生かした、生活科・総合的な学習の時間を軸とした教育活動を展開していく。この「つながり」には、3つの視点がある。一つ目は、「身近な他者や異学年、地域とのつながり」、二つ目は、「児童生徒の『問い』のつながり」、三つ目は、「振り返りの活用をした学びのつながり」である。

これら三つの「つながり」を意識した教育活動を行うことで、自己を確立し、他者と協働し、新たな価値を創造することができる生徒（義務教育修了時）の育成を目指し、研究主題を「「自分」を育て地域とともに生きる児童生徒の育成～「つながり」を大切にしたい深い学びを実現する生活科・総合的な学習の時間を通して～」と設定した。

(3) 研究仮説

「つながり」（①身近な他者や異学年、地域との交流 ②児童生徒の「問い」 ③振り返りの活用）を大切にしたい授業により深い学びを実現すれば、「自己を確立し、他者と協働し、新たな価値を創造する生徒（義務教育修了時）」を育成することができるであろう。

5 研究内容

(1) 身近な他者や異学年、地域との「つながり」のある教育活動

【生活科・総合的な学習の時間】

身近な他者や異学年、地域とのつながりのある授業を展開し、多様な他者と関わることで、様々な思いや価値に気付いたり、自分自身が新たな価値を生み出したりできるようにする。

【その他の教育活動】

施設一体型のよさを生かした様々な異学年等の活動を行うことで、より多様な他者との関わりが生まれるようにする。

- ・小中合同朝会（音楽朝会・生徒朝会）

- ・小中合同防災訓練
- ・呉中央学園文化フェスタ
- ・気軽に「ちょこっと交流」

※ 施設一体型のよさを生かし、小中の児童生徒が朝の帯タイムや休憩時間等で、気軽に交流を図るもの。

(2) 児童生徒の「問い」がつながる授業展開

<p>【生活科】</p> <p>○児童の「問い」がつながり、気付きの質が高まる学習過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の「問い」を生かした課題設定・授業展開 ・児童の「問い」を引き出し、つなげる発問の工夫 ・気付きの質の高まりを促す手立ての工夫 <p>【比較する、分類する、関連付ける、理由付ける等】</p>
<p>【総合的な学習の時間】</p> <p>○児童生徒の「問い」がつながり、学びが深まる学習過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の「問い」を生かした課題設定・授業展開 ・児童生徒の「問い」を引き出し、つなげる発問の工夫 ・思考の深まりを促す手立ての工夫 <p>【比較する、分類する、関連付ける、多面的・多角的に見る、理由付ける等】</p>

(3) 生活科「できるようになったよシート」及び総合的な学習の時間「あしあとシート」を活用した学びの振り返り

- ・児童生徒自身が自分の学びの進捗状況を把握し、学習全体を俯瞰して振り返ったり、課題解決に向かって自分で学びを調整したりすることで、自己評価力を育てる。
- ・教師が児童生徒の学びの状況を把握し、授業改善に生かす。

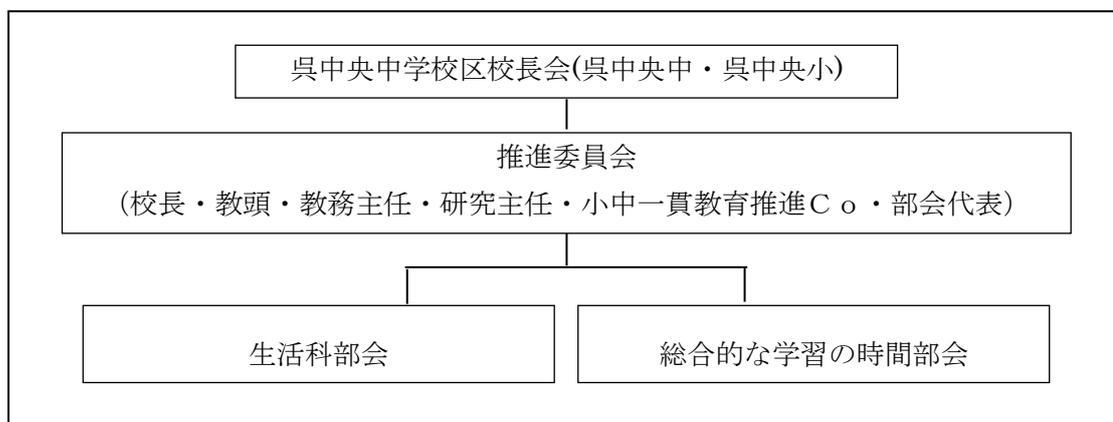
6 検証について

	検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
生活科	①児童が身近な他者や他学年と交流をすることで、様々なことに気付いたと感じているか。	児童意識調査	肯定的評価をした児童の割合	—	90%以上
	②児童が自分の活動を振り返り、気付きを関連付けたり、次への意欲を高めたりしているか。	振り返りシートの記述分析	気付きの質が高まった児童の割合	89%	90%以上
	③児童から出てくる「問い」を生かした課題設定・授業展開になっていたか。	教職員意識調査	肯定的回答の割合	100%	85%
	④児童の思いや考えを引き出し、つなげる発問の工夫をしていたか。	教職員意識調査	肯定的回答の割合	—	85%

総合的な学習の時間	①児童生徒が、他者や他学年、地域との交流をすることで様々なつながりに気付いたか。	児童生徒意識調査	肯定的評価をした児童生徒の割合	—	90%以上
	②自己存在感が高まったと感じているか。 (7～9年生)	児童生徒意識調査	肯定的評価をした児童生徒の割合	94%	90%以上
	③児童生徒が「地域の人・もの・こと」と関わりたい、地域社会に貢献したいという意欲をもっているか。	児童生徒意識調査	肯定的評価をした児童生徒の割合	97%	90%以上
	④振り返りシートを書くことで、これまでの学習を振り返ったり、これからの活動を考えたり、その後の活動に生かしたりすることができたと感じたか。	児童生徒意識調査	肯定的評価をした児童生徒の割合	—	80%以上
		振り返りシートの記述分析	学びが深まっている児童生徒の割合	83%	85%以上
	⑤児童生徒から出てくる「問い」を生かした課題設定・授業展開になっていたか。	教職員意識調査	肯定的回答の割合	96%	90%
⑥児童生徒の思いや考えを引き出し、つなげる発問の工夫をしていたか。	教職員意識調査	肯定的回答の割合	—	90%	

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小) 小学校第5・6学年【音楽科, 理科】, 第6学年【外国語科】

(小→中) 全学年【食育】

イ 小学校教科担任制等

- 小学校 第2学年【書写】
 第3学年【書写・図画工作科】
 第4学年【書写・理科】
 第5学年【書写・理科・体育科・家庭科】
 第6学年【書写・理科・体育科・外国語】

8 推進計画

月 日	内容	
	呉中央中	呉中央小
4月17日	本学園の現状とこれまでの取組・課題について 施設一体型のよさを生かした取組について 全国サミットに向けて ・本学園の研究について ・年間単元計画の共有と異学年交流 ・「ちょこっと交流」について	
5月26日	学びの変革 オンデマンド研修	
6月16日	事前研究	
6月23日	研究授業① 講師 広島大学 名誉教授 朝倉 淳	
6月30日	事前研究	
7月7日	研究授業② 講師 広島大学 名誉教授 朝倉 淳	
7月29日	指導案検討 朝倉先生による御指導 Aグループ 8:30~11:30	
8月4日	指導案検討 朝倉先生による御指導 Bグループ 8:30~11:30	
	1学期の振り返りシートの分析 各学年の実践及び2学期の活動についての交流	
8月5日	指導案検討 朝倉先生による御指導 Cグループ 13:00~16:00	
8月20日	マナビノラボ	
10月2日	小中一貫教育全国サミット（1日目） ※ 第3回研究授業（兼）	
10月3日	小中一貫教育全国サミット（2日目）	
1月13日	2学期の振り返りシートの分析 各学年の実践及び3学期の活動についての交流	
1月20日	事前研究	
1月26日	研究授業③ 講師 広島大学 名誉教授 朝倉 淳	
3月16日	今年度のまとめ	

9 その他

- ・小中一貫だより（年3回発行予定）
- ・小中合同朝会（音楽朝会・生徒朝会）
- ・小中合同防災訓練
- ・呉中央学園文化フェスタ

※ 研究構想図、カリキュラムマップを添付する。